旭山動物園だより

（№.１２０）　（２００７年６月１８日）

旭山動物園はベビーラッシュ！
となりの村ではマガモがたくさんのヒナをつれています

ASAHIYAMA Zoo

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104

朗報！ワシミミズク繁殖に成功！

５月の中旬、ワシミミズクの卵がふ化しました。産卵は４月の上旬で、しばらくの間は確認できずにいました。というのは、ワシミミズクは卵を温めている間はとても神経質。飼育係がエサを与えたり、掃除をするためにケージに入るだけでも、肩をいからせ、クチバシをならして威嚇してきます。そのため、必要最小限の世話にとどめていました。

ただ、担当者は確信していたといいます。去年、ワシミミズクの担当になって以来、エサを変えたり、ワシミミズクが落ち着けるようにケージの一部を板で覆ったり、絶食日（※）をもうけたりするなど、ワシミミズクの野生での暮らしや環境に近づけていったのです。担当者は繁殖の喜びをかみしめました。

↑手前にはふわふわのヒナが

晴れて５月にふ化したヒナ３羽は、ぐんぐん大きく育っています。親や巣からも離れて過ごすようになり、観察しやすくなっています。ワシミミズクの巣立ちはおよそ10週間。７月下旬くらいまでは、柔らかな羽毛から大人の羽に徐々に生え替っていく様子がみられます。ぜひ観察していってください。

「ワシミミズクが卵をうんでいるようだ」そんな報告に、他の飼育展示係は半信半疑。過去に別の個体で、卵を産んでいないのに、あたかも卵を抱いているような姿勢（擬抱卵）をしており、期待していた飼育係をがっかりさせたこともありました。「今年もどうかわからんぞ」そんな気持ちがあったかどうかはわかりません。

（※）狩りをする動物たちは、毎日獲物がとれるわけではありません。食生活のリズムを作るのに、肉食の動物には絶食日をもうけています（ワシミミズクは不定期でおこなっています）

旭山今昔（その４）

ラクダのチビ、旅立ち

旭山40年の歴史を見てきたラクダの歴史に幕がおりました。開園当初から今まで飼育されたラクダは全部で４頭です。１代目のコブオから始まり、チビ・マルと続き今の「チビ」に至ります。チビは円山動物園よりマルの繁殖相手として、帯広動物園にいるオスのもとへ旅立つことになったのです。

旭山動物園ではオスの導入予定がなかったため、この度、ブリーディングローン（ブリーディングローン）個体でした。しかし３年前にマルに先立たれ、チビ１頭で飼育をしていました。

ラクダの思い出を振り返り、担当者は言いました。「マルはとても人が好きでね、よく近寄ってきたもんだが、チビは違ったね。収容の時なんか、僕が急いでいる時は、必ずといっていいほど寝室に入らなかったり、そうかと思えばすぐ入ったり。とにかく人の言うことを聞かないんだよ。」ラクダの性格もさまざまだったようですが、ラクダの話をする担当者は実に誇らしげでした。間近で見たときのラクダの迫力や、独特な歩き方・毛の生え変わりなど、ラクダは見に来た人たちに強い印象を与えました。

引っ越し当日、今までの４頭のラクダたちに感謝を込めてチビを見送りました。旭山動物園ではかなわなかった繁殖。新しい環境で素敵なオスと会って、元気な赤ちゃんを産んでくれるよう願っています。

８年前のワンポイントガイドの様子です

ラクダにエプロン?!

ラクダの前足と胸の間には座りだこがあります。そこが地面とすれてキズついてしまったために、４年前から座りだこの治療の度に、飼育係お手製のエプロンをつけていました。度々改良を重ね、材料にはお風呂マットが使われていました。その座りだこも今は快方にむかっています。

春にはカラスがやってきて…

毎春、ラクダの毛が生え替わる頃、カラスがラクダ舎にやってきていました。それは巣作りをするため、モコモコのラクダの冬毛がお目当てだったのです。断熱効果のある冬毛は絶好の巣材ですね。

抱卵中 ～やさしく見守っていてね～

ぺんぎん館にすむ４種類のペンギンたちも抱卵中です。岩場にすむイワトビペンギンの卵は９日と12日に相次いでふ化し、石のくぼみで子育てをしています。このほかジェンツーペンギン・フンボルトペンギンに、キングペンギンもそれぞれの方法で卵をあたためています。今年は何羽のヒナに会えることができるでしょうか？

また、旭山ではじめてタンチョウが産卵しました。オスとメスが交互に卵をあたためています。お客さんからすぐ見えるところでじっとふ化を待っています。ふ化するまでは、あと２週間くらい。元気なヒナに会えるよう、祈っていてください。

ヒナがかえるまでの３０～３３日間、ずっとあたため続けます

親鳥のお腹の下にはヒナの姿が…

ヒナの鳴き声がきこえてきます

ラクダの前足と胸の間には座りだこがあります。そこが地面とすれてキズついてしまったために、４年前から座りだこの治療の度に、飼育係お手製のエプロンをつけていました。度々改良を重ね、材料にはお風呂マットが使われていました。その座りだこも今は快方にむかっています。